

目次

この本の目的と構成.....	iii
----------------	-----

第1部 とりたて表現の研究手法と研究動向

とりたて表現の対照研究の方法.....	野田 尚史	3
とりたて表現の研究動向.....	茂木 俊伸	21

第2部 日本の言語のとりたて表現

日本語のとりたて表現の歴史.....	小柳 智一	41
日本語学習者のとりたて表現.....	中西 久実子	59
琉球語のとりたて表現.....	狩俣 繁久	77

第3部 東アジア・東南アジアの言語のとりたて表現

韓国語のとりたて表現.....	鄭 相哲	97
中国語のとりたて表現.....	井上 優	111
タイ語のとりたて表現.....	峰岸 真琴	129
インドネシア語のとりたて表現.....	原 真由子	145

第4部 南アジア・西アジア・アフリカの言語のとりたて表現

ヒンディー語のとりたて表現	今村 泰也, プラシャント・パルデシ	165
ネパール語のとりたて表現	桐生 和幸	183
シンハラ語のとりたて表現	岸本 秀樹	201
トルコ語のとりたて表現	林 徹	219
ヘレロ語のとりたて表現	米田 信子	237

第5部 ヨーロッパの言語のとりたて表現

英語のとりたて表現	大澤 舞	257
ドイツ語のとりたて表現	筒井 友弥	275
フランス語のとりたて表現	デロワ 中村 弥生	293
チェコ語のとりたて表現	ユラ・マテラ	311

あとがき	329
索引	337
著者紹介	355

この本の目的と構成

この本は、「だけ」「さえ」「も」のようなとりたて表現について、日本語と世界のさまざまな言語の共通点と相違点を明らかにするために、22名の研究者が共同研究を行った成果である。

古代日本語では係り結びという文法現象があったため、係り結びに関係する係助詞と関係しない副助詞を区別していた。係り結びがなくなった現代日本語では係助詞と副助詞を区別する必然性がなくなり、係助詞と副助詞をとりたて助詞としてまとめて扱うことが多くなってきた。

とりたて助詞の研究は30年ほど前から少しずつ盛んになり、現在では「とりたて」は現代日本語で重要な文法概念になってきている。

日本語以外の世界のさまざまな言語でも、「だけ」「さえ」「も」のような意味を表す表現が見られる。しかし、それぞれの言語の文法では、とりたてを表す表現は副詞などを分類するときに触れられるだけで、重要な文法的概念とは考えられていないことが多い。

そのような状況を打ち破るために、私たちは日本語だけでなく、世界のさまざまな言語のとりたて表現の研究を大きく進展させるための共同研究を行った。

日本語については、現代日本語のとりたて表現の研究をもとにして、古代日本語や、日本語を母語としない学習者の日本語などを取り上げた。日本語以外の言語については、日本語のとりたて表現の研究をもとにして、さまざまな言語のとりたて表現について特に特色のある現象を中心に分析した。

日本語以外の言語についてはこれまであまり研究が行われてこなかったテーマであるため、研究には苦労が多かったが、日本語との共通点と相違点が浮かびあがり、とりたて表現の研究のおもしろさを示せる成果が得られたと考えている。

この本は、5部構成になっている。第1部では、この本の導入として、とりたて表現の研究方法与研究動向を示した。第2部では、日本の言語のとりたて表現として、日本語のとりたて表現の歴史、日本語学習者のとりたて表現、そして琉球語のとりたて表現を取り上げた。第3部では、東アジア・東南アジアの言語として韓国語、中国語、タイ語、インドネシア語のとりたて表現を扱った。第4部では、南アジア・西アジア・アフリカの言語としてヒンディー語、ネパール語、シンハラ語、トルコ語、ヘレロ語のとりたて表現を取り上げた。第5部では、ヨーロッパの言語のとりたて表現として英語、ドイツ語、フランス語、チェコ語のとりたて表現について述べた。

それぞれの論文は、現代日本語のとりたて表現と対照するという視点を重視し、現代日本語との共通点と相違点が見えるように書かれている。それは、裏を返せば、それぞれの言語の文法記述に従ってその言語のとりたて表現を記述するのを避けたということである。それぞれの言語の文法記述は枠組みも文法用語もさまざまである。そうした文法記述に従って研究すると、他の言語との対照が難しくなるからである。

最近の文法研究の流れを見ると、格助詞のような必須要素から終助詞のような任意要素の研究に進んでいる。また、テンスのような単純な対立からモダリティのような複雑な対立の研究に向かっている。さらに、形態論のような文脈から独立した要素の研究から談話標識のような文脈に依存した要素の研究へとという流れもある。そして、どんな形をしているかという構造の研究からどう使うかという運用の研究へと進んでいる。このような流れを考えると、とりたて表現の研究は新しい時代の研究であり、開拓していく余地がまだ多く残っているテーマだと言える。

なお、この研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」の研究成果である。研究の過程でアンナ・ブガエワさんと原由理枝さんにもご協力いただいた。また、論文原稿のさまざまなチェックや統一、索引の作成については井戸美里さんから多大な助力を得た。本の編集と出版については、くろしお出版の池上達昭さん、荻原典子さんのお世話になった。（野田尚史）

第

1

部

とりたて表現の研究方法与研究動向

とりたて表現の対照研究の方法

野田 尚史

1. この論文の主張

この論文では、「だけ」「さえ」「も」のようなとりたて表現について日本語と他の言語を体系的に対照するためには、どのような方法を使い、どのような観点から分析するのがよいかを論じる。

次の2.でとりたて表現とはどのようなものかを述べたあと、3.で(1)のような基本方針を示し、4.で(2)のような調査方法を説明する。

- (1) それぞれの言語のとりたて表現に関する中心的で一般的な現象について、現代日本語とさまざまな言語の対照を行う。
- (2) できればパラレル・コーパスなど言語間の対応関係がわかるデータを使って調査を行う。

そのあと、5.から9.で現代日本語と他の言語のとりたて表現を対照するときの観点について説明する。(3)から(7)の5つである。

- (3) とりたてを表す形態：とりたての機能をどのような形態で表すか？
- (4) とりたて表現が表す意味：とりたて表現はどのような意味を表すか？
- (5) とりたて表現の位置：とりたて表現は、とりたてる対象に対してどのような位置に置かれるか？
- (6) とりたて表現の文法的制約：とりたて表現は、述語に対してどのような文法的制約を持っているか？

とりたて表現の研究動向

茂木 俊伸

1. この論文の主張

この論文では、とりたて表現の研究の「これまで」、特に現代日本語研究においてどのような観点からどのような問題が議論されてきたのかについて概観する。さらに、とりたて研究の「これから」、すなわち今後の研究の展開の可能性も探っていく。

この論文の内容は、次の(1)から(4)の4点にまとめられる。

- (1) 文法用語としての「とりたて」は、1つの文において、文中の要素だけでなくその同類の要素についてもどうであるかを述べるという文法的な働きを指す。
- (2) とりたて表現の研究は、従来、個々の語の分析からそれらの相互関係や全体像を把握する方向へと進められてきた。
- (3) とりたて表現の研究は、今後、とりたて助詞の研究からそれ以外の表現の研究へと拡張していく必要がある。
- (4) 研究対象の拡張は、「とりたて」に対する理解を深めることにつながる。

以下、2.では「とりたて」という用語について簡単に説明し、3.ではとりたて助詞の意味の分析とその体系化を行った研究を見ていく。さらに、4.でとりたて助詞以外のとりたての働きを持つ表現に関する研究を見たうえで、5.で今後のとりたて研究で論点になりうるトピックを示す。最後の6.は、まとめである。

日本語のとりたて表現の歴史

小柳 智一

1. この論文の主張

この論文では、日本語のとりたて表現の中心であるとりたて助詞を取り上げ、古代日本語のとりたて助詞を、現代日本語と対照しながら見ていく。古代日本語のとりたて助詞の体系は、現代日本語と基本的に対応するが、独自の特徴もある。また、日本語のとりたて助詞の歴史における2つの大きな変化について詳しく述べる。

この論文では、(1)から(4)のことを主張する。

- (1) 古代日本語のとりたて助詞は、大きく副助詞と係助詞に分かれる。
- (2) 古代日本語には、現代日本語と同じく「限定」「反限定」「極端」「反極端」「類似」「反類似」を表す助詞がある。ただし、「反限定」はもともと日本語になかった。
- (3) 古代日本語の副助詞は、文中に現れる位置の違いによって、2種類に分かれる。また、副助詞と係助詞が承接する場合は、副助詞の後に係助詞が現れる。
- (4) 古代日本語の「反極端」の助詞が呼応する述語には、現代日本語の「反限定」の助詞と同じ文法的制約が見られる。また、否定の述語と呼応する制約のある「反転的な限定」の助詞は、もともと日本語になかった。

以下、まず2.で、古代日本語のとりたて助詞にどのようなものがあ

日本語学習者のとりたて表現

中西 久実子

1. この論文の主張

この論文では、日本語学習者がとりたて表現をどう使っているかという使用実態とその習得の特徴を明らかにする。対象とするとりたて表現は、「だけ」「しか」「ばかり」など「限定」を表すとりたて助詞、「さえ」「まで」「でも」など「極端」を表すとりたて助詞、「も」など「類似」を表すとりたて助詞、「でも」「なんか」など「反限定(例示)」を表すとりたて助詞、「なんか」「ぐらい」など「反極端(普通)」を表すとりたて助詞、そして、「は」など「反類似(対比)」を表すとりたて助詞である。

この論文では、次の(1)から(4)のことを主張する。

- (1) 初級の学習者はとりたて助詞の使用頻度が低いが、中級、上級、超級になるにつれて、使用頻度が高くなる。そして、中国語を母語とする学習者は使用頻度が高いが英語を母語とする学習者は使用頻度が低い。学習者がもっともよく使うとりたて助詞は、「類似」を表す「も」と限定を表す「だけ」であり、日本語母語話者も同じである。
- (2) 学習者は、「夕食はパンだけだ」など「[[名詞] + だけだ」を多用する。これに対して、母語話者は「ただ走っているだけだ」など「[[動詞] + だけだ」を多用する。
- (3) 学習者が多用する「[[名詞] + だけだ」は、「この本は 1000

琉球語のとりたて表現

狩俣 繁久

1. この論文の主張

この論文では琉球語のとりたて表現を取りあげる。琉球語は多様な下位方言で構成されるが、この論文では那覇方言のとりたて表現を扱う。次の(1)から(4)を述べる。

- (1) 琉球語のとりたて表現は、日本語と同じく、とりたて助詞が中心である。
- (2) 「限定」「極端」「反限定」「類似」「反類似」を表すとりたて助詞はあるが、「反極端」を表すとりたて助詞はない。
- (3) 主語や目的語をとりたてるとき、とりたてる名詞の後ろにとりたて助詞を付ける。格助詞があるときはその後ろに付ける。主語を表す格助詞ガ(が)、ヌ(が)の後ろにもン(も)、ヤ(は)、ドゥ(こそ)を付ける。
- (4) 「限定(特立)」のドゥ(こそ)は、使用上の制限があって疑問詞疑問文と命令文には現れない。しかし、日本語の「こそ」に比べて使用頻度が高く、断定文、推量文、肯否疑問文などで使用され、さまざまな述語形式が文末に現れる。

以下、2.で琉球語のとりたて表現の形態について、3.でとりたて表現の意味について、4.でとりたて助詞の位置について、5.でとりたて表現におけるドゥと述語制限について述べる。

琉球語のとりたて表現についての研究は、野原三義(1986)がある。

韓国語のとりたて表現

鄭 相哲

1. この論文の主張

この論文では、日本語と韓国語のとりたて表現を比較し、その類似点や相違点について、(1)から(4)のことを述べる。

- (1) 韓国語のとりたて表現の形態は、主に助詞と副詞からなり、日本語と共通する点が多い。意味的にも、「限定」「反限定」「極端」「反極端」「類似」「反類似」について、いずれも日本語とほぼ対応する形態を持つ。
- (2) 韓国語のとりたて助詞の位置は、日本語と同じでとりたてる対象の後に置くのが普通である。しかし、日本語では問題なく現れる位置に現れない場合や、逆に日本語では現れない位置に問題なく現れる場合がある。
- (3) 韓国語のとりたて表現のなかには、文末に制約のあるものがある。とくに、「反類似」を表す(i)ya(は)は、断定文や推量文には現れるものの、疑問文や命令文、勧誘文、話者の意志を表す文には用いることができない。
- (4) 韓国語の「反類似」の(i)ya(は)は、「反極端」のとりたて助詞に付加して用いられることがある。また、反語文では(i)yaが「極端」の意味に近づいている。

2. から 5. では、(1)から(4)についてそれぞれみていく。6. はまとめである。なお、韓国語の表記は Yale 式のローマ字に従うことにする。

中国語のとりたて表現

井上 優

1. この論文の主張

この論文では、中国語のとりたて表現について、(1)から(4)のことを述べる。

- (1) 中国語では、副詞がとりたて表現として用いられる。とりたて副詞は「主語と述語の間」に置かれる。
- (2) 中国語のとりたて副詞は主に「限定」「極端」「類似」を表し、基本的に「反限定」「反極端」「反類似」は表さない。
- (3) とりたて副詞を含む文の語順には、「とりたてる対象-とりたて副詞-述語」、「とりたて副詞-述語-とりたてる対象」という2つのパターンがある。
- (4) 日本語のとりたて表現と中国語のとりたて表現は、意味が同じでも、使い方が異なることがある。

2.では(1)について述べる。3.から5.ではそれぞれ(2)から(4)について述べる。6.はまとめである。

2. 中国語のとりたて表現の形態

中国語は語順が重要な言語である。基本語順は、(5)に示したように、「主語(主題)-述語-目的語」である。

- (5) 我去北京。

私 行く 北京

タイ語のとりたて表現

峰岸 真琴

1. この論文の主張

この論文はタイ語のとりたて表現の特徴を明らかにする。この論文の主張は(1)から(5)のとおりである。

- (1) タイ語のとりたて表現には、とりたてる対象の前に置かれるとりたて助詞と、とりたてる対象の後に置かれるとりたて副詞との2種の形態によるもののほか、とりたてる語句を移動するという文法的手段によるものがある。
- (2) とりたて表現の形態によって、とりたてる対象の性質、とりたての内容に対する話し手の評価のほか、文体による意味の違いがある。
- (3) とりたて助詞によって、とりたてる対象の品詞や、主語、目的語など文法上の役割に関しての制限がある。
- (4) 「反類似」のとりたては、語句を文頭に移動して主題化することで表す。
- (5) 「反限定」の表現として、不定を表す意味の単語が組み合わされて定型化したものがある。

2. タイ語の特徴ととりたて表現の形態

タイ語は名詞や動詞の語形変化がなく、基本的な文法関係を主に語順で表現する。文の基本語順は「主語－動詞－目的語(SVO)」であり、

インドネシア語のとりたて表現

原 真由子

1. この論文の主張

この論文では、日本語のとりたて表現を手がかりに、インドネシア語にはどのようなとりたて表現があるのかを見る。特に複数のとりたての意味を持つ saja を考察する。saja は「限定」「極端」の2つのとりたての意味系列を表し、さらにそれぞれの対立する意味である「反限定」「反極端」も表す多義的な表現である。

論点は(1)から(4)の4点である。

- (1) インドネシア語のとりたて表現の形態は主に副詞であり、意味的には「限定」「反限定」「極端」「反極端」「類似」を持つ。「反類似」にはとりたて表現の専用の形態はない。saja は、「限定」「反限定」「極端」「反極端」の意味を持つ。
- (2) インドネシア語のとりたて表現 saja は意味によって、文での位置、構文などの文法的なふるまいが異なる。しかし、文での位置や構文が共通し、文脈でしか意味の区別ができない場合もある。
- (3) saja には、疑問詞に付加する用法がある。疑問詞に付加した saja は、疑問詞疑問文に現れる用法と平叙文に現れる用法があるが、それぞれの意味は異なる。
- (4) 「反限定」の saja は「限定」の saja から生じたもので、命令・勧誘の直裁さをやわらげ、聞き手への配慮を示す語用論

ヒンディー語のとりたて表現

今村 泰也, プラシャント・パルデシ

1. この論文の主張

この論文では、ヒンディー語のとりたて表現の形態、意味、文法的な特徴について(1)から(4)のことを述べる。

- (1) ヒンディー語には、「限定」「極端」「反極端」「類似」「反類似」を表すとりたて助詞と、「限定」「反極端」を表すとりたて副詞がある。また、「反限定」の意味で重複表現が用いられる。
- (2) ヒンディー語のとりたて表現は、文脈や文法的な環境によって、「類似」や「限定」のとりたて表現が「極端」の意味で用いられることや「反類似」のとりたて表現が「反極端」の意味で用いられることがある。
- (3) ヒンディー語のとりたて表現の位置は、とりたて助詞はとりたてる対象の後に置き、とりたて副詞はとりたてる対象の前に置くのを基本とする。ただし、その基本に従わないとりたて助詞もある。
- (4) ヒンディー語のとりたて助詞の tak (まで) は、後置詞の tak (まで) と形態が同じであるが、文法的制約が異なる。

2. から 5. では、(1) から (4) についてそれぞれ述べる。6. ではまとめを行う。

ネワール語のとりたて表現

桐生 和幸

1. この論文の主張

この論文の目的は、日本語と同じ「主語－目的語－動詞 (SOV)」を基本語順とするネワール語のとりたて表現の形態、意味、文法、運用を記述し、日本語の対応する表現との類似点やずれを考察することである。この論文の主張は(1)から(4)の4つである。

- (1) ネワール語のとりたて表現は、ほとんどが助詞で、「限定」「極端」「類似」「反類似」の4種類の体系である。
- (2) ネワール語のとりたて表現の意味は、日本語と似ているものも多いが、特に「限定」を表すとりたて助詞は、日本語にはないものが見られる。
- (3) ネワール語のとりたて助詞は、格成分、副詞的要素、節、述語、名詞修飾要素をとりたて、それらの直後に置かれる。
- (4) 「極端」「反類似」のとりたて助詞がそれぞれ「反限定」「反極端」の意味に見える場合があるが、文脈などの語用論的なことを踏まえると多義的であるとは言えない。

次の2.ではネワール語の概要を述べ、ネワール語のとりたて表現の形態について、本書の「とりたて表現の対照研究の方法」(野田尚史)の6つの体系にどう対応するかをまとめる。3.ではネワール語のとりたて表現がそれぞれ具体的にどのような意味を表すのかを考察する。4.ではネワール語のとりたて表現がどのような位置に現れるかについて説明

シンハラ語のとりたて表現

岸本 秀樹

1. この論文の主張

この論文では、シンハラ語のとりたて表現について(1)から(5)のことを述べる。

- (1) シンハラ語のとりたて表現は、助詞や接辞の形態をもち、述語・否定と呼応するものとししないものがある。
- (2) シンハラ語のとりたて表現が表す意味は、日本語とも共通して観察されるものがある。
- (3) シンハラ語のとりたて表現は、さまざまな種類の表現に付き、その表現をとりたてることができる。
- (4) シンハラ語のとりたて表現の現れる位置は、述語や否定と呼応を起こすかどうかで異なる場合がある。
- (5) とりたて表現の中には、どのような文脈で使用されるかにより、異なる意味が表されるものがある。

2. ではシンハラ語の概要について、3. から7. では、それぞれ(1)から(5)について述べる。8. はまとめである。

2. シンハラ語について

シンハラ語は、タミル語とともにスリランカの公用語であり、日本語と同じように「主語－述語－目的語(SVO)」が基本語順となる言語である。シンハラ語には、文語シンハラ語(Literary Sinhala)と口語シ

トルコ語のとりたて表現

林 徹

1. この論文の主張

トルコ語は、ユーラシアの北半分に広く分布しているチュルク諸語と呼ばれる言語群のひとつで、主にトルコ共和国で話されている。基本的に述語後置型の言語だが、述語以外の要素の順序はかなり自由である。単語を活用させたり、すでにある単語から新しい単語を作るには、単語の後ろに接尾辞を付ける。表記は、1929年にアラビア文字からローマ字に変更された。トルコ語独特の文字や読み方は、ça「チャ」、ca「ジャ」、şa「シャ」、ğa「ウア」、ı「ウ(ただし唇を丸くしない)」だけで、あとは日本語でのローマ字の読み方とほぼ同じである。

この論文では(1)から(3)の3点を述べる。

- (1) トルコ語には「限定」「極端」「反極端」「類似」「反類似」に該当するとりたて表現があり、「限定」のとりたて表現だけがとりたてる対象の前に置かれ、ほかはすべてとりたてる対象の後ろに置かれる。
- (2) 前に置かれるとりたて表現と後ろに置かれるとりたて表現との間には、とりたてる対象との結びつきの強さや、疑問詞がとりたてる対象になれるかどうかの点で、違いがある。
- (3) 単語を繰り返す重複という方法で、トルコ語では該当するとりたて表現のない「反限定」のとりたてを表すことがある。また、目的語を示すために使われる名詞対格形が「反類似」

ヘレロ語のとりたて表現

米田 信子

1. この論文の主張

この論文では、ヘレロ語のとりたて表現について(1)から(3)のことを述べる。

- (1) ヘレロ語には、「限定」「極端」「類似」のとりたて表現はあるが、「反限定」「反極端」「反類似」を表すとりたて表現はない。
- (2) 「限定」と「類似」のとりたて表現は、とりたてる対象の後ろに置くのが基本だが、「極端」のとりたて表現はとりたてる対象の前に置くのが基本である。ただし、「限定」のとりたて表現を単文のまま主語の直後に置くことはできない。主語をとりたてる場合には、分裂文にする必要がある。また「類似」のとりたて表現は、とりたてる対象の直後に置くのが一般的だが、とりたてる対象が文頭にある場合には、とりたて表現を文末に置くことも可能である。
- (3) ヘレロ語には「限定」を表すとりたて表現に「厳密な限定」と「ゆるやかな限定」という2つのレベルがある。

2.では、ヘレロ語の「限定」「極端」「類似」を表すとりたて表現の形態と意味について説明する。3.では、それぞれのとりたて表現が現れる位置ととりたてる対象を示す。4.では、「限定」の2つのレベルについて語用論的な観点から検討する。5.では、ヘレロ語のとりたて表

英語のとりたて表現

大澤 舞

1. この論文の主張

この論文では、日本語と英語のとりたて表現を比較し、その類似点や相違点について、(1)から(4)のことを述べる。

- (1) 英語では、「焦点化副詞語句」に分類される副詞がとりたて表現である。「限定」「極端」「類似」のとりたて表現として機能する副詞はあるが、「反限定」と「反類似」のとりたて表現として機能する副詞はない。また、「反極端」のとりたて表現として機能する副詞は at least の1つである。
- (2) 英語では、「限定」のとりたて表現として機能する副詞の種類は多いが、そのほとんどは形容詞派生の副詞であり、専用の形態を持つものは、alone, just, only の3語だけである。
- (3) 英語では、とりたて表現を、とりたてる対象の前にのみ置かれるもの、とりたてる対象の前と後に置くことができるもの、とりたてる対象の後にのみ置かれるものに分類することができる。
- (4) 英語では、日本語では言語化されるとりたて表現が、文内に表されない場合がある。特に、「反限定」や、「少なさ」の「限定」を表す「だけ」に対応する表現は、あえて言語化することはない。また、英語では、「限定」のとりたて表現の just が「聞き手の負担軽減」という語用論的効果を表すとき

ドイツ語のとりたて表現

筒井 友弥

1. この論文の主張

この論文では、日本語とドイツ語のとりたて表現を比較し、その類似点や相違点について、次の(1)から(5)のことを述べる。

- (1) ドイツ語のとりたて表現は、日本語のとりたて助詞に近い形態として現れる。
- (2) ドイツ語のとりたて助詞は、「限定」、「極端」、「類似」の意味で頻繁に使用される。
- (3) ドイツ語のとりたて助詞は、対象の直前、直後あるいは離れた位置に出現する。
- (4) ドイツ語のとりたて助詞のなかには、1つの表現が複数の意味を表すものがある。
- (5) ドイツ語では、「反限定」、「反極端」、「反類似」にあたるとりたて助詞はほぼ皆無である。

以下、2. から 6. で、(1) から (5) について順に述べる。7. はまとめである。

2. ドイツ語のとりたて表現の形態

ドイツ語のとりたて表現には、たとえば、(6) に挙げるとおり nur (だけ), sogar (さえ), auch (も) などがある。

フランス語のとりたて表現

デロワ 中村 弥生

1. この論文の主張

この論文では、フランス語のとりたて表現について、形態論、意味論、文法論、語用論の観点から(1)から(5)のことを述べる。

- (1) フランス語のとりたて表現には、主にとりたて副詞が用いられる。
- (2) フランス語のとりたて副詞には、「限定」「極端」「反極端」「類似」の意味を表すものがある。
- (3) フランス語のとりたて副詞は、主にとりたてる対象の直前に現れるが、とりたてる対象から離れた位置からとりたてることもある。
- (4) フランス語のとりたて副詞には、人称代名詞や否定に関わる特徴的な文法的制約がある。
- (5) とりたて表現の実際の運用を対訳コーパスで見ると、フランス語のとりたて副詞で表されない「反限定」「反類似」、とりたて副詞で表現できる「限定」も他の手段で表現されていることが分かる。また、特に「限定」「極端」のとりたてはフランス語で言語的に明示されても日本語で明示されないことがある。

2. から 6. では、これら(1)から(5)についてそれぞれ述べる。7. はまとめである。

チェコ語のとりたて表現

ユラ・マテラ

1. この論文の主張

チェコ語ではとりたて表現として主にとりたて助詞 (vytýkací částice) が用いられる。チェコ語のとりたて表現は、先行研究では情報構造の観点から積極的に論じられてきた。しかし、先行研究が扱っているとりたて表現は、主題を表すものが多く含まれており、ここで扱うとりたて表現とは必ずしも一致しない。この論文では、とりたて表現を主題などの情報構造から引き離して、日本語との対照という観点から再整理することを試みる。日本語のとりたて表現に対応するチェコ語の表現について(1)から(4)のことを述べる。

- (1) チェコ語には、とりたて表現の形態としてとりたて副詞ととりたて助詞がある。また、日本語でとりたて表現を用いるところであっても、チェコ語ではとりたて表現を用いない場合がある。
- (2) チェコ語のとりたて表現の基本的な位置として、とりたて助詞はとりたてる対象の直前に置き、とりたて副詞はとりたてる対象の直前にも直後にも置く。また、とりたて副詞がとりたてる対象から離れた位置にくる場合もある。
- (3) チェコ語には、日本語において「反類似」の意味を表すとりたて助詞の「は」や「こそ」に相当する形式はないが、語順、音調や特殊な構文によって「反類似」の意味を表す場合